

埋文コラム 『発掘から見えてきたトイレ事情』

土壌分析からわかる縄文の食料事情

三内丸山遺跡（縄文時代前期中頃～中期末）では、廃棄ブロック（当時のごみ捨て場）の土を採取し、土壌分析を行っています。その結果、寄生虫卵が高密度で検出されている層がみつき、この寄生虫の種類から人の排泄物が堆積したものと判断されました。そこから、三内丸山人の生活を予想すると...

- 寄生虫による腹痛などの消化器症状に悩まされていた。
- 寄生虫に汚染されやすい野草か野菜、または水を摂取していた。
- 沿岸魚特有の寄生虫の検出がみられたことから、海水魚を食べていた。

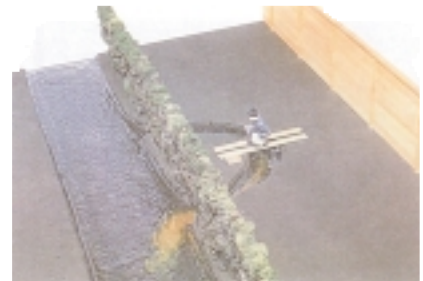
古代のトイレは水洗？

藤原京（694～710）右京九条四坊の発掘現場で、当時の道路側溝の流水を宅地内に引き込み、排泄物を水と共に流し出す弧状の遺構が確認されました。土壌分析を行ったところ、比較的高い密度で寄生虫卵がみつき、これが水洗式のトイレであるということが判明しました。



水洗式トイレ遺構

（掲載許可 檀原市教育委員会）



水洗式トイレ復元模型

（掲載許可 大田区立郷土博物館）

古代のトイレトーパー...^{ちゅうぎ} 簀木

昔は紙が大変貴重であったため、木や竹のへらを使って拭いていました。これらの木や竹のへらを「簀木」と呼んでいます。藤原京のトイレ以降、各地のトイレ遺構で簀木がともなって出土しています。農村部を中心に、昭和初期まで簀木を使用していた地域もあるようです。



藤原京で出土した簀木

（掲載許可 檀原市教育委員会）

新潟県糸魚川市清崎城跡のトイレ状遺構

清崎城跡では、濠跡・門の基礎に係わる柱根・井戸跡・廃棄土坑・トイレ状遺構と考えられる土坑などが検出されています。

「トイレ状遺構」（近世）では、土坑底面に桶の下部が残存し、その中にウリとみられる種子が多量に堆積しているという見解から、この土の土壌分析を行いました。（但し、寄生虫卵の分析は行っていない。）その結果、ウリ科メロン類・バラ科キイチゴ属・ブドウ科ブドウ属・グミ科グミ属の種子類などが検出され、当時の植生や食生活を、うかがうことができます。また、この土は生物起源とされるリン酸の検出が顕著であり、遺構の特徴などからも便所の可能性が高いと考えられます。

引用・参考文献

- 「企画展 食と考古学 -食いしんぼうの時間旅行-」 福島県立博物館 2001
- 「考古学トイレ考」 大田区立郷土博物館 1996
- 「トイレ遺構の総合的研究」 奈良国立文化財研究所 黒埼直編 1998
- 「新潟県の考古学」 新潟県考古学会 1999